



市議会だより

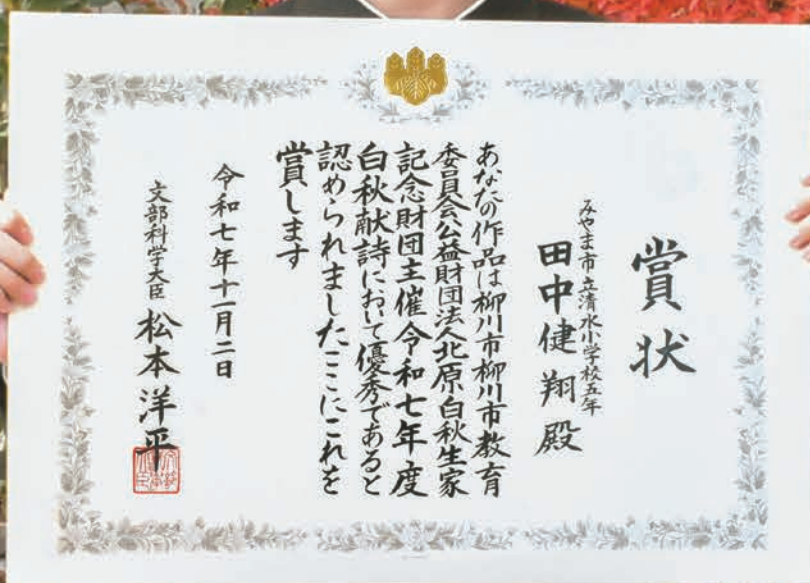
みやま^んギカイ

No.76 令和8(2026)年2月1日発行 令和7年12月定例会の内容などをお伝えします。

清水小学校5年

田中 たなか

健翔 たけるさん



CONTENTS

P2～3	12月定例会の概要等
P4～8	一般質問
P9～12	委員会の報告など
P13	表紙のひと
P14	聞かせて!あなたの夢

こんなことが決まりました

—— 定例第4回市議会で決まったことから主なものをとりあげます。 ——

一般会計

6億7280万8千円を追加し
総額 245億8736万9千円

一般会計補正予算の財源

○地方交付税	2億1484万6千円
○国庫支出金	2億1734万6千円
○県支出金	1億1287万円
○繰越金	1億1844万6千円
○市債	930万円

令和7年度補正予算

定例第4回市議会では、令和7年度一般会計補正予算など議案21件を審議し、すべて可決しました。

会期 12月3日～12日(10日間)

定例第4回市議会

詳しくはこちら↓



特別会計

国民健康保険事業
261万5千円を追加し
総額 53億2143万4千円

後期高齢者医療
356万2千円を追加し
総額 8億5166万7千円

介護保険事業	
(介護保険事業勘定)	(介護サービス事業勘定)
494万5千円を追加し	44万4千円を追加し
総額 52億1441万円	総額 2160万1千円

企業会計

水道事業	
(収益的支出)	(資本的支出)
119万2千円を追加し	76万9千円を追加し
総額 4億9535万2千円	総額 5億15万9千円

下水道事業	
(収益的支出)	(資本的支出)
82万4千円を追加し	131万6千円を追加し
総額 7億1894万8千円	総額 7億1265万6千円

一般会計補正予算 歳出の主なもの

障がい福祉サービス費 2億3900万円

生活介護サービス事業や共同生活援助サービス事業が増加するため、不足分を追加するものです。

障がい児支援サービス費 1億2000万円

放課後等デイサービス事業や児童発達支援事業が増加するため、不足分を追加するものです。

水田農業DX推進事業費補助金

2793万8千円

農業に関わる様々なデジタルデータを活用した農業版DXにより、省力化や収量向上を支援するため、スマート農業機械の導入経費の一部を補助するものです。

【補助対象者】農事組合法人2件、株式会社2件、個人3件
【補助内容】コンバイン、トラクター、農業用ドローンなど

重点支援地方交付金関連予算 4408万円

- 子育て施設給食等支援事業 1608万円
- 施設園芸用燃油高騰対策事業 2800万円

※詳細はこちらからご確認下さい。↓



条例制定の主なもの

みやま市放置自転車等対策条例の制定

市が設置・管理する駐車場、駐輪場（市営駐輪場を除く）や道路等の「公共の場所」に放置されている自転車等について、市民の良好な生活環境の確保や機能の低下を防止するため、撤去等に関し必要な事項を定める、新たな条例を制定するものです。

みやま市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例の制定

児童福祉法等の一部を改正する法律及び児童福祉施設の設備及び運営に関する基準等の一部を改正する内閣府令の施行に伴い、保育所等の職員による虐待に関する通報義務等の創設や家庭的保育事業等利用乳幼児に対する健康診断の基準に変更が生じたため、関係する条例を改正するものです。

みやま市火災予防条例の一部を改正する条例の制定

対象火気設備等の位置、構造及び管理並びに対象火気器具等の取扱いに関する条例の制定に関する基準を定める省令及び火災予防条例（例）の改正に伴い、条例に所要の改正を行うものです。

※すべての議案名と審議結果は、市ホームページをご覧ください。



ここが聞きたい！

一般質問



一般質問って・・・？
市議会議員が市に対し、市政についての疑問点を質問し答弁を求め、政策的提言等を行うものです。

再度、食料品アクセス困難者対策を

答弁／適した支援をする



黒田清隆 議員



問 「食料品アクセス困難者」問題は、高齢者、障がいを持つ人、低所得者にとって深刻である。「買い物バスツアー」事業の継続を長島地区の方々は望んでいる。買い物支援の継続は可能か。

答 地域の主体的な運営のもとで、継続されると認識する。

問 食料品アクセス困難者の地域別実態をどこまで把握しているか。

答 データはない。実態把握が可能か検討する。

問 山間部、郊外で、買い物支援の要望がある。市内に広げる対策は。

答 本市に適した買い物支援の取組を検討する。

本市のeスポーツの可能性は

問 eスポーツは、年齢・地域を問わずできる新しいコミュニ

ケーション手段として、地域活性化、デジタル教育、不登校支援、シニアの健康づくりなどで急速に広がっている。今後の方針は。

答 eスポーツを公民館活動などに活用できないか検討している。児童生徒及び教職員のデジタル人材育成に繋げる。高齢者の健康づくりとして、介護サービス事業所などにも情報提供を行う。また、地元特産品の認知度向上、販路拡大、地元産業の活性化、交流人口の増加、観光消費拡大が期待される。先行事例の調査を進める。



市民の生活を支える「買い物バスツアー」

学校体育館へ空調設備を

答弁／財政状況を勘案し、慎重に検討する



荒巻隆伸 議員



問 猛暑による熱中症の高まりを受け、児童生徒の安全確保や学習環境改善のため、市内中学校の体育館等に空調（冷房）設備を設置すべきでは。

答 体育館への空調設備の必要性は十分認識しているが、みやま中学校建設、新学校給食センター建設、市内小中学校の照明設備のLED化等の大型事業が相次ぐため、導入したいが、直ちに着手することは困難だと考える。

問 設置にはいくらかかるか試算されたか。

答 県内、他市に聞いたところ1校当たり約1億円かかる。

問 文科省の補助金や過疎債を活用できないか。

答 活用すれば約1500万円できる。

問 一度に整備しないで分散して整備することもできるのではないか。

答 部活動を行っている熱中症リスクの高い中学校3校から整備する方法はある。

問 市の過疎債活用状況は。

答 令和7年度は事業分として29件総額17億230万円を申請し、14億630万円の配分をいただいている。今後も積極的に活用していく。

問 国の重点支援地方交付金、お米券や電子クーポンにも使えるが、市の使い道は。

答 市への交付額が未定だが、物価高騰への支援ができるよう総合的に検討する。



輻射熱空調（冷房）設備設置の体育館

第三セクターの民営化は

答弁／現時点では民営化の考えはない



中島一博 議員



問 第三セクターである「道の駅みやま・みやまSE」は、市長就任以来約8年間筆頭株主として管理運営されているが、再度民営化に対する市長の見解を伺う。

答 第三セクターについては、地域経済の活性化、雇用の創出、住民サービスの向上など、住民生活や基幹産業の振興に密接に関わっており、現時点では民営化の考えはない。

問 第三セクターの役員については、市のOBではなく、一般から幅広く公募してどうかと、何度も何度も提案してきたが、なぜ公募しなかったのか、再度市長に伺う。

答 地方公共団体から独立した、公共性、公益性が高い事業を行う法人として、取締役の選任については、市との連携や円滑な運営が期待できることなど総合的に判断し、株主総会及び取締役会で決議される。

問 市の条例改正については、11月4日の全員協議会で、担当者から改正しないと説明されたが、再度市長の見解を伺う。

答 第三セクターは、経営悪化による会社立て直しが必要な場合などには、条例を改正し、派遣することも考えられる。現在、市が出資する第三セクターの経営状態を見ると、職員の派遣の必要性は低いと判断し、条例の改正は行わない。



現時点では民営化の考えはない
みやまスマートエネルギー(株)

学校跡地を複合型施設として 設置運営を

答弁／幼老複合施設として 居場所づくりをしていく



前原 武美 議員



問 本郷小学校跡地活用案であるが、具体的説明が不足しているのでは。

答 本郷小学校跡地については、子どもの居場所づくり、災害時の避難所機能、多世代との交流拠点として活用を進めたい。

問 国が推奨している幼老複合型施設として、多世代間の交流により、老人の生きがいができ、児童達の優しさを育む施設としてはどうか。

答 多世代の住民同士が集い、交流できる居場所づくりを創出していく。

問 次に、ホテルとファミレスを一体化した宿泊施設の誘致を積極的に取り組まれたらどうか。

答 みやま市に、ホテルとファミレスはぜひとも必要であり、望むところである。

問 今日、ワンヘルスセンター

開設と企業誘致の拡大を図り、未来に向かつてのまちづくりへの動きがあつている。

そのことにより、人の出入りがあり、活性化にも必要なホテル誘致の現状はどうなっているのか。

答 昨年、誘致条例を改正したが、現在動きは無い。

問 今のホテルは、ファミレスと一体となった宿泊施設としての開設が増えているが。

答 今後、複合型ホテルを含め、誘致活動を推進していく。



多世代が交流できる居場所づくりを

活動の明確化を

答弁／考慮する必要がある



諸富 正也 議員



問 民生委員の現状と課題は。

答 厚生労働大臣から委嘱され、無報酬のボランティアとして活動する特別職の地方公務員で、誰もが安心して暮らせる地域づくりのため、地域住民の身近な相談相手として活動している。

また、子どもや子育ての困りごとの相談に乗る児童委員を兼ねている。子育てや介護の悩み、生活する上での心配ごとや不安などの様々なことに対して相談相手となり、「つなぐ」役割を担っている。

定員92名のところ、82名が委嘱され、社会の変化により活動は年々難しく、人間関係の希薄化、価値観の多様化など、民生委員の活動は複雑化している。

高齢になっても仕事を続ける方が多く、減少している背景には、相談対応の難しさや、仕事との両立の困難さを心配されること

があるのではないかと推察している。

問 民生委員の役割と活動を明確化する必要があるのではないか。

答 生活上様々なことに対する相談相手となることを求められ、住民のために献身的に活動いただいており、役割を明確化することで、活動が制限されることがないように考慮する必要があり、支援を行っていく。



福祉の「つなぎ役」民生委員・児童委員

「業務委託契約」の意図は

答弁／市との締結の必要があるから



中尾眞智子 議員



問 委託型（企業）地域おこ

し協力隊員の改正要綱にある「市と業務委託契約を締結する法人等が雇用する者」との文言の狙い、意図は何か。協力隊員の自由度が狭められるのではないか。

答 隊員への報償費等や活動費

の支出には、市との業務委託契約の締結が必要。これまでより勤務形態や活動の自由度は高くなり、柔軟な運用が可能だと考える。

問 協力隊への活動サポートの

具体的な体制づくりは。

答 総合政策課が調整役とな

り横断的に取り組む。また市だけではなく、協力隊OB・OGを相談役として活用するなど外部委託も検討の必要がある。

「人口が減っても大丈夫なまちづくり」について

問 人口ビジョンでは2060

年「国立社会保障・人口問題研

究所」の推計1万7425人に対し、市の将来目標人口は、2万3089人と33%も多く、約6千人も違う。人口が減少すれば、過剰な職員や公共施設が残り、非常に厳しい行政運営になる。公共施設の削減など、新たな課題に対応する職員を配置し、厳しい政策を考えるべきだ。

答 業務効率化や広域連携、

公共施設の集約化や適正化など、実効性のある施策にスピード感をもつて取り組む。



協力隊主催のクリスマスマーケット

環境の改善に積極的な取組みを

答弁／早急な対応を考えていく



三小田智裕 議員



問 管理が著しく不全な「特定空き家」はなぜ現在も認定がないのか。

答 現在、調査及び手続きの段階である。

問 相続放棄された空き家や空き

地があるのを認識しているか。

答 認識はしている。

問 相続財産清算人及び不在者

財産管理人の制度を検討すべきでは。

答 それらの制度も視野に入れて検討すべきとは考える。

問 管理不全の空き地に対する

行政の対応は。

答 継続して改善の勧告を行っている。

問 空き地の管理に関する条例に

ついて、改正の必要性があると思うが。

答 他自治体の事例を参考に、現在調査研究を行っている。

問 空き家の解体にあたり、所有者

の経済的負担の問題をどう考えるか。

答 解体費補助制度を実施しており、所有者負担分については融資の斡旋などを検討していく。

問 市内の耕作放棄地の現状は。

答 令和6年度で62ヘクタールが遊休農地と把握している。

問 耕作放棄地の解消をどう

考えるか。

答 遊休農地解消対策事業等を活用し、山川町河原内の約40ア

ールの遊休農地の解消が実現できた。

引き続きこれらの事業を活用して

いく。



放置され荒廃した空き地

地震などの大規模災害への備えは

答弁／引き続き取り組んでいく



奥蘭由美子 議員



問 令和6年能登半島地震で被災した石川県穴水町の視察研修で、「災害対策で何が一番重要か」との問いに、「自助と共助が最も重要。大規模災害では、町やその他の関係機関だけで対応することは非常に困難で、住民の協力なしでは災害対応はできないと痛感した」との回答だった。市の自主防災組織と防災士の現状と今後は。

答 令和7年12月1日現在で、自主防災組織は105組織で組織率は70パーセント。登録防災士は68名で、44行政区に配置されており、配置率は29パーセント。令和10年度までに、自主防災組織を組織率85パーセントの128組織、登録防災士は配置率50パーセントの75行政区への配置達成を進める。

問 市の受援体制の現状と今後は。

答 令和7年10月に防災図上訓練を実施した。今後は、受援計画の見直しによる体制の確立や定期的な訓練の実施による職員の対応力向上、関係機関・団体との連携強化に努める。

問 「道の駅みやま」が「防災道の駅」に選定されたが、今後の整備は。

答 県によりコンテナトイレが今年度中に設置される。



石川県穴水町の仮設住宅

ワンヘルスの住民への周知は 教育などで周知する



森弘子 議員



問 ワンヘルスのみやま市民への周知が不足しているのでは。初めに返って周知すべきではないか。

答 本市では、令和6年3月に策定した「みやま市ワンヘルス推進行動計画」に基づき、「ワンヘルスのまちみやま」を実現するために「健康と命を守る」「動物との共生」「食育・地産地消」「環境保護」「みやま市の魅力向上」「ワンヘルス実践の基盤づくり」「ワンヘルスセンターの活用」の7つの基本方針で、住民への普及啓発に取り組んでいる。

問 ワンヘルスセンターの安全面は。

答 動物の検体や菌の取り扱いについては、家畜伝染病予防法など関係法令に基づき、適正に対処されると聞いている。住民の方が不安に感じている事については、広報紙などを活用して情報発信に努める。県にもしっかりと伝え、丁寧に説明していただくよう、市としてお願いする。

問 幅広いワンヘルスの、どの部分をどのようにまちづくりに生かしていくのか。

答 特に力を入れているのが、教育。ワンヘルスセンターの建築工事を契機に、新たな地域活性化の取組や資源循環のまちづくり、産業の振興、安全・安心の



県が建設中のワンヘルスセンター

文教厚生常任委員会

【定例会報告】

12月9日に委員会を開催しました。

委員会では、付託された議案2件等について審査しました。

議案「みやま市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例の制定について」は、「内閣府令」の施行に伴い、保育所等の職員による虐待に関する通報義務等の創設や、家庭的保育事業等利用乳幼児に対する健康診断の基準に変更が生じたため、関係条例を改正するものです。

議案「みやま市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について」は、子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律の施行により、こども誰でも通園制度が創設されたことから、事業所の認可等に関する適合基準を定めるため、条例を制定するものです。

慎重審査の結果、いずれも原案のとおり可決すべきものと決しました。

独自の支援策を「11の鍵」と称して展開していました。



【行政視察報告】

11月5日から7日まで視察研修を行いました。

●兵庫県相生市

【子育て応援施策「11の鍵」】

相生市の子育て応援施策「11の鍵」については、相生市子育て応援都市宣言を行い、若年新婚世帯の定住促進や子育て世帯への切れ目のない支援を目的とした、

●広島県三原市

【三原市児童館『ラフラフ』事業】

三原市では、三原市児童館『ラフラフ』事業として、0歳から18歳までの子どもと保護者を対象に、すべての子どもの「第3の居場所」として、気軽に立ち寄れる場所を提供。特に中高生が利用しやすい環境づくりを重視されていました。



▲相生市での視察

●広島県呉市

【呉市「データヘルス」事業】

呉市は、呉市「データヘルス」事業として全国に先駆け、レセプト（診療報酬明細書）をデータベース化し、保健事業を推進してきた自治体で、がん検診の受診勧奨や生活習慣病の重症化予防に注力していました。



▲呉市での視察



▲三原市児童館『ラフラフ』

産業建設常任委員会

【定例会報告】

12月10日に委員会を開催しました。

委員会では、付託された議案2件等について審査しました。

議案「みやま市バイオマスセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について」は、みやま市バイオマスセンター体育館の解体に伴い、体育館の使用に関する項目を削除する必要があるため、条例を改正するものです。

また、「みやま市営駐輪場条例の一部を改正する条例の制定について」は、市営駐輪場の名称及び位置並びに長期間放置されている自転車等の措置について所要の整理を行うため、条例を改正するものです。

慎重審査の結果、いずれも原案のとおり可決すべきものと決しました。

【行政視察報告】

11月12日から14日まで視察研修を行いました。

●JA山形市・JAやまがた
「山形セルリー団地及び野菜・果樹団地等について」

JA山形市・JAやまがたでは、セルリー・果樹等の団地を整備し、新規就農者の増加及び、出荷量の増加を実現してあります。農業の担い手不足や、後継者不足が深刻な中、少数の農家に対し、行



政と農協が連携を図り、新規就農しやすい支援を行っていくことが必要だと感じました。



▲山形セルリーハウスでの視察

●山形県山形市
「農地集約化事業及び農業DXの推進について」

山形市では、地区の農地を効率的に利用するため、地区で話し合いを行い、農地の集積・集約化を推進する仕組みづくりや、農業機械の自動化や営農管理システムを導入し、農業DXの普及啓発や山形市の農業に適したスマート農業を実施しています。

みやま市においても、農業DXの普及啓発やみやま市の農業に適したスマート農業の実践を行うことで、農作業の省力化や生産性の向上を図り、農業経営の安定化と農地集約化を図ることにつながるのではと感じました。



▲山形市役所での視察

総務常任委員会

〔定例会報告〕

12月11日に委員会を開催しました。

委員会では、付託された議案3件等について審査しました。

議案「みやま市議会議員及びみやま市長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例の制定について」は、公職選挙法施行令の一部を改正する政令の施行に伴い、選挙運動用ビラ及び選挙運動用ボスターの公費負担額を改めるものです。

議案「みやま市放置自転車等対策条例の制定について」は、市が設置・管理する駐車場、市営駐輪場を除く駐輪場や道路等の「公共の場所」に放置されている自転車等の撤去等に関し、必要な事項を定める新たな条例を制定するものです。



議案「みやま市火災予防条例の一部を改正する条例の制定について」は、林野火災に関する注意報の新設や、屋外等のテント等に設置される消費熱量が小さいサウナ設備に適用する基準を定めるため、「簡易サウナ設備」を加えるとともに、必要な規定などを整備するものです。

慎重審査の結果、いずれも原案のとおり可決すべきものと決しました。

〔行政視察報告〕

11月10日から12日まで視察研修を行いました。

●福井県大野市

「屋内型こどもの遊び場「おおの天空パークOSORA」

小学校跡地の体育館を活用した、大野の魅力を感じることができる「あそび」の広場で、本市においてもこどもの遊び場のニーズは高まっております、非常に参考になりました。



▲おおの天空パークOSORA

●石川県穴水町

「令和6年能登半島地震における災害対応」

実際に被災した経験を元にした震災対応についての話は説得力があり、課題解決に向けた取り組みは、本市でも整備が必要であると

感じました。



▲穴水町の仮設住宅

●福井県坂井市

「ふるさと納税」

「寄附市民参画制度」では、市民等から具体的な施策メニューを公募し、市民参画基金検討委員会により選定された事業に対し寄附を募り、目標額に達した事業から実行していきます。

市民参画のまちづくりの視点が面白いと感じました。



▲坂井市での視察

有明生活環境施設組合議会

10月9日に令和7年第2回定例会を開催し、令和6年度一般会計の決算認定議案及び公平委員会委員選任議案を審議し、すべて可決しました。

今回は、歳入決算のうち発電余剰電力売電料約3100万円の収入について報告します。

有明ひまわりセンターでは、こみを焼却するときに発生する熱を利用し、蒸気タービン発電機で発電しています。発電した電気は施設の運転に利用し、残った電気は全て売電しています。発電出力は最大1810kWで令和6年度は年間約700万kWhを発電し、自家消費した残りの余剰電力約390万kWhを「みやまスマートエネルギー(株)」に売電しました。この売電収入は、有明ひまわりセンターの大規模修繕などに備えて「クリーンセンター施設管理基金」に毎年積み立てています。



▲有明ひまわりセンター



▲有明ひまわりセンターのプラットフォーム

柳川みやま土木組合議会

10月30日に令和7年第2回定例会を開催しました。会議冒頭に議長選挙が行われ、みやま市選出の上津原議員が議長に就任しました。

次に令和6年度一般会計歳入歳出決算の認定について、令和7年度一般会計補正予算(第1号)についての2議案が上程されました。

令和6年度の決算につきましては、歳入総額3億5294万922円、歳出総額3億3735万5465円、差引残額1558万5457円となり、このうち、翌年度へ繰り越すべき財源はなく、実質収支額1558万5457円となりました。

この実質収支額の1558万5457円を令和7年度に繰越いたしました。

一般会計補正予算(第1号)につきましては、歳入歳出それぞれ100万円を減額し、予算の総額を歳入歳出それぞれ4億1330万円としようとするものであります。

いずれも慎重審議の結果、原案のとおり認定、可決されました。

《令和6年度決算》

1. 歳入総額	3億5294万922円
2. 歳出総額	3億3735万5465円
3. 実質収支額 (翌年度繰越額)	1558万5457円

表紙のひと

清水小学校5年 ^{たなか たける} 田中 健翔さん

今回は、令和7年度「白秋献詩」において、最優秀の文部科学大臣賞を受賞した田中 健翔さん取材させていただきました。「白秋献詩」…柳川市出身の詩人 北原白秋を顕彰する全国規模の詩のコンクール

文部科学大臣賞に「山先生」が選ばれたと知ったとき、どう思いましたか？

「全く想像していなかったすごい賞だったので、とても驚きました。全国で募集されたたくさんの詩の中から、自分の作品が『一番よかった』と感じてもらえて、選んでもらったことがとても嬉しかったです。」



「山先生」にはどんな思いが込められていますか？

「学校の登下校時に毎日見ている清水山について考えたことを作品にしました。ずっと同じ場所にいて、自分も、自分の祖先も見守ってくれている山の『温かさ』『優しさ』『厳しさ』『偉大さ』を伝えたかったです。そして、たくさんのことを教えてくれる先生のような山へ、感謝と尊敬の気持ちを伝えようと思い作品にしました。」

『ぼくの町にある山は…』とした理由は、清水山を知らない遠くに住んでいる人にも、読んだ人の心の中にある山の景色と重ねて想像してもらえるかな、と思ったからです。

『みんな協力して生きるよ…』とした理由は、人間だけではなく、動物や植物も一緒に生きていく、というみやま市でも取り組まれているワンヘルスの意味を込めました。」

白秋祭で朗読した時の感想は？

「たくさんの観客の前で朗読しなければいけませんでした。朗読の練習に学校の先生も一緒になって取り組んでくださったので、当日は一番かつこよく朗読できたと思います。清水山の素晴らしさが伝わるように気持ちを込めて朗読を行いました。頂いた『たて』がずっしり重くて、すごい賞だということを改めて感じました。」

好きなことや趣味は？

「本を読むことが好きです。学校で友達とサッカーをすることも楽しいです。また、将棋が趣味です。強くなりたいので家族や友達と対局したり、インターネットや教室に通って勉強中です。」

山先生

みやま市立清水小学校

5年 田中 健翔

ぼくの町にある山は
いろんなことを教えてくれる先生だ
頭から太陽を引っ張り出し
世界は彩りのある
美しい世界だということを
教えてくれる
ぼくをかたに乗せ
世界はこんなにも広いということを
教えてくれる
たまにひざをゆらして
自然のこわさを教えるけれど
みんな協力して生きるよと
教えてくれている
背中では
その後ろの世界を想像させて
ぼくたちに考える力を教えてくれる
ぼくは毎朝顔を合わせる
い大な山の先生に
かぶっていたぼうしをぬぎ
今日も深く頭を下げる

聞かせて! あなたの夢



山川中学校 2年

金子 真祐さん
かね こ しんすけ

僕の夢

現在、日本の野良猫や野犬は何も罪もないのに殺されているという話を聞きました。だから、僕は動物たちがかわいそうだと思います。動物を保護する仕事に就きたいと思うようになりました。そのために、動物の生態や動物と仲良くなる方法を知ることが大事なので、動物の本を買って色々と調べています。

僕の家では猫を飼っています。この猫は保護猫です。毎日この猫たちと仲良く遊んでいます。大好きな動物たちが殺処分されるのは絶対に嫌です。だから、動物を保護する仕事ができるようにこれから頑張ります。



みやま市マスコットキャラクター
くっぴー

編集委員
委員長 古賀 義教
副委員長 森 弘子
委員 諸富 正也
委員 三小田 智裕
委員 黒田 清隆
委員 河野 一仁

《次回定例会》
2月27日(金)
からの予定です。



インターネットで
中継・録画を配信
市ホームページ「みやま市議会」のインターネット中継からご覧ください。

編集後記

令和8年明けましておめでとうございます。本年も皆さま方のご健康とご繁栄をお祈りいたします。

さて今年も、議会の様子をリアルに載せた「議会だより」をお届けします。この1冊から、議会と皆さまの距離が少しでも近くなっていくことを望みます。

今年のみやま市は、日本は、どのような道に進んでいくのでしょうか。日本で初の女性総理大臣 高市早苗氏が誕生し、これからどのように変わっていくのか、皆さまが固唾を呑んで見守っています。私たちみやま市も、議員それぞれが力を合わせて、市民の声を市政に届けていきたいと思っています。

来年は早いもので、3町合併から20周年を迎えます。「合併してよかった」と皆さまから言っていただけに、誠心誠意努めてまいります。どうぞお力添えをよろしくお願いいたします。

今年は午年。みやま市と皆さまにとって、ウマークいく1年となりますように心から願っております。

編集副委員長 森 弘子

みやま市ホームページアドレス <https://www.city.miyama.lg.jp/>